

## 「できる」ことより「かわること」



6月3日(土)の体育発表会に向けて練習に熱が入ってきました。当日、子どもたちは、練習の成果を発揮し、今までのがんばりをお家の方に見てもらおうとがんばります。どうか、結果ではなくて、今までの取り組みや、がんばる姿を認め、褒めてあげてください。

人は褒められて伸びていきます。褒めて認められることによって存在感を得て、やる気も出てきます。子どもも大人も同じです。しかし、やたらに褒めてもダメです。いかにタイミング良く効果的に褒めるかということが大事です。子どもの様子をよく見て、タイミング良く褒めることができるといいですね。また、結果ではなく、がんばりや努力を認めて褒めてあげたいです。「100点取ってすごいね。」「1位になってすごいね。」では、結果ばかり求める子になってしまうかもしれません。また、100点取らなきゃダメな子、1位にならなきゃダメな子と自分で決めつけてしまうかもしれません。だからこそ、「できること」より「変わることを褒めることが大切です。子どもたちが成長していく過程を見て、そこでのがんばりや伸びたこと、よりよく変わったことを認め、褒めてあげたいですね。「毎日続けてがんばるね。」「あきらめずにやりきったね。」「昨日の漢字テストは60点だけど、今日は65点だ。伸びたね。」「途中で間違いに気づいて直したね。」一人一人のがんばりや伸びたこと、よりよく変わったことを認め、褒めることによって、子どもたち自身が成長することを望み、がんばる子が育っていくのではないのでしょうか。

体育発表会でも、「最後まで走りきったね。」「全力で走ったね。」「楽しく踊っていたね。」「みんなと協力し合ったね。」など、がんばる姿をたくさん見つけて褒めてあげてください。よろしく願います。

(校長 松浦達之)